

令和4年度「飼料用米多収日本一」の受賞者の決定について

農林水産省及び一般社団法人日本飼料用米振興協会は、令和4年度「飼料用米多収日本一」を実施し、農林水産大臣賞をはじめ各賞の受賞者を決定しましたので、お知らせします。

1. 「飼料用米多収日本一」の概要

「飼料用米多収日本一」は、生産技術の面から先進的で他の模範となる飼料用米生産者を表彰し、その成果を広く紹介することで、飼料用米生産者の生産に係る技術水準の向上を図ることを目的として実施しています。表彰区分ごとに、審査委員会で審査し優秀と認められた方々に各賞を授与しています。

【表彰区分】

- ・ 単位収量の部
- ・ 地域の平均単収からの増収の部

【褒賞区分】

- ・ 農林水産大臣賞
- ・ 農産局長賞
- ・ 全国農業協同組合中央会会長賞
- ・ 全国農業協同組合連合会会長賞
- ・ 協同組合日本飼料工業会会長賞
- ・ 日本農業新聞賞

2. 各賞の受賞者について

令和4年度の受賞者は、以下のとおりです。

（単位収量の部）

褒賞	受賞者	都道府県
農林水産大臣賞	農事組合法人長戸北部営農組合 代表理事 木村 透	茨城県
農産局長賞	株式会社山中農産 代表 山中 哲大	埼玉県
全国農業協同組合中央会会長賞	農事組合法人ふながわ 代表者 由井 久也	富山県
全国農業協同組合連合会会長賞	香山 行徳	茨城県
協同組合日本飼料工業会会長賞	高杉 伸悦	青森県
日本農業新聞賞	福土 浩樹	青森県

（地域の平均単収からの増収の部）

褒賞	受賞者	都道府県
農林水産大臣賞	小久保 栄一	埼玉県
農産局長賞	永松 英昭	佐賀県
全国農業協同組合中央会会長賞	倉持 信雄	茨城県
全国農業協同組合連合会会長賞	氏家 信夫	宮城県
協同組合日本飼料工業会会長賞	海地 博志	山口県
日本農業新聞賞	農事組合法人祖父江営農 代表理事 佐竹 利一	岐阜県

3.表彰式

期日：令和5年7月21日（金曜日）（予定）

会場：東京大学弥生講堂（東京都文京区弥生1-1-1 東京大学弥生キャンパス内）（予定）

添付資料

令和4年度「飼料用米多収日本一」受賞者の概要

令和4年度「飼料用米多収日本一」審査委員名簿

「飼料用米多収日本一」実施要領

【お問合せ先】

農産局穀物課

担当者：田口、太田

代表：03-3502-8111（内線4846）

ダイヤルイン：03-3502-5965

令和4年度「飼料用米多収日本一」受賞者の概要

○単位収量の部

(敬称略)

褒賞名	経営体 (団体名・個人名)	住所	品種	作付面積 (a)	単収 (kg/10a)	受賞理由
農林水産大臣賞	農事組合法人長戸北部営農組合 代表理事 木村 透	茨城県 龍ヶ崎市	オオナリ 北陸193号	3,163	916	多収性や耐倒伏性に優れた品種の選定、育苗から収穫までの一連の作業における省力化・コスト低減の取組、地域の養豚業者との耕畜連携など、全ての取組において高く評価された。また、30haを超える作付面積で900kgを超える単収を達成しており、他の生産者と比べて特に優秀な成績であることが評価された。
農産局長賞	株式会社山中農産 代表 山中 哲大	埼玉県 加須市	みなちから	136	881	多収性や難脱粒性に優れた品種の選定が行われ、881kgの高単収を達成している。また、ラジコンボートを用いた除草作業や営農管理システムの活用など省力化に向けた取組が高く評価されたとともに、地域の畜産農家からの堆肥購入など耕畜連携の取組も評価された。
全国農業協同組合 中央会会長賞	農事組合法人ふながわ 代表者 由井 久也	富山県 朝日町	やまだわら	607	871	高い収量をあげていることもさることながら、田植機へ自動操縦システムを導入、低段差緩傾斜耕作道の整備など生産面における省力化の取組が評価された。また、地域の営農組織と連携し、鶏卵会社の鶏糞肥料を輸送費のみの負担で使用し、コスト削減につなげているなど耕畜連携の取組も評価された。
全国農業協同組合 連合会会長賞	香山 行徳	茨城県 常総市	ほしじるし	604	799	流通の円滑化・経営の合理化につながる全農買取スキームを活用しているとともに、799kgの高単収を実現していることが評価された。また、田植え時期や水管理等の見直しにより前年からの大幅な単収の増加を実現していることが評価された。
協同組合日本飼料 工業会会長賞	高杉 伸悦	青森県 五所川原市	ゆたかまる	371	811	地域の中核的生産者との協力の下で高水準の単収を実現し、地域全体として飼料用米の大ロット・安定生産を支えることにより、同じ県内の配合飼料工場群との間で飼料用米利活用の確固たるシステムを構築している取組が評価された。
日本農業新聞賞	福士 浩樹	青森県 五所川原市	ゆたかまる	1,074	818	省力化、コスト低減、多収に向けた工夫が随所に見られ、家族経営で無理なく栽培管理が行き届く経営をしている点が評価された。インターネットなどを通して新しい技術の情報収集にも積極的で、挑戦マインドが高いことも評価された。

令和4年度「飼料用米多収日本一」受賞者の概要

○地域の平均単収からの増収の部

(敬称略)

褒賞名	経営体 (団体名・個人名)	住所	品種	作付面積 (a)	地域平均単収 からの増収 (kg/10a)	受賞理由
農林水産大臣賞	小久保 栄一	埼玉県 深谷市	北陸 193 号	356	373	多収性や耐倒伏性に優れた品種の選定が行われ、地域平均単収からの増収が373kgと、他の生産者に比べて優秀な成績であることが評価された。また、畜産農家から入手した鶏ふんを施用する耕畜連携の取組とともに、化学肥料の不使用や減農薬など環境に配慮した取組が行われていることが特に高く評価された。
農産局長賞	永松 英昭	佐賀県 白石町	ミズホチカラ	137	225	多収性や耐倒伏性に優れた品種の選定により、地域平均単収からの増収が225kgと高単収を達成していることが評価された。また、裏作の麦わらのすき込みや堆肥散布機による自身での堆肥散布などの土づくり、多肥栽培による多収に向けた取組、地元の畜産農家との耕畜連携の取組が高く評価された。
全国農業協同組合 中央会会長賞	倉持 信雄	茨城県 常総市	ほしじるし にじのきらめき	978	310	基本技術の励行とともに、JA主導の地元の栽培講習会に参加し情報収集を行い、栽培技術の向上や生産コストの低減に積極的に取り組んでいることが評価された。また、特に水管理に注意を払い、茎数制御や根の健全化を意識し、ほ場の状態を常日頃から観察すること等により、高い単収を上げていることが評価された。
全国農業協同組合 連合会会長賞	氏家 信夫	宮城県 栗原市	萌えみのり	239	238	流通の円滑化・経営の合理化につながる全農買取スキームを活用しているとともに、高い増収となる238kgを実現していることが評価された。また、作り慣れた品種により、生育状況をふまえた適切な追肥をおこなうことで安定的な多収が実現できていることが評価された。
協同組合日本飼料 工業会会長賞	海地 博志	山口県 山口市	北陸 193 号 みなちから	228	240	同じ県内の実需者との協力による堆肥の活用を通じて地域循環を基本とした耕畜連携を推進しつつ、高水準の単収を実現し、当該実需者との間で安定した飼料用米利活用のシステムを構築している取組が評価された。
日本農業新聞賞	農事組合法人祖父江営農 代表理事 佐竹 利一	岐阜県 養老町	北陸 193 号 みなちから	1,731	247	気候や品種、施肥、消毒など農作業記録データを管理し、多収に向けた生産に生かしていること、実需者と協議し、取組品種の見直しなどを毎年検討し、常に新しいことを取り入れようとする姿勢が評価された。耕畜連携の取り組みも評価できる。

令和4年度「飼料用米多収日本一」
審査委員名簿

(敬称略)

東京大学 名誉教授	谷口 信和
国立研究開発法人農業・食品産業技術研究機構九州沖縄農業研究センター 暖地水田輪作研究領域水田高度利用グループ グループ長補佐	中野 洋
株式会社トマル 代表取締役会長	都丸 高志
生活クラブ生活協同組合・東京 副理事長	加瀬 和美
全国農業協同組合中央会農政部 部長	生部 誠治
全国農業協同組合連合会米穀部 部長	金森 正幸
協同組合日本飼料工業会 専務理事	高橋 洋
日本農業新聞編集局営農生活部 次長	原尻 大志
農林水産省農産局 局長	平形 雄策

「飼料用米多収日本一」実施要領

〔平成 28 年 4 月 4 日〕
〔27 政 統 第 848 号〕

最終改正 令和 4 年 4 月 1 日

1 趣旨

飼料用米については、食料・農業・農村基本計画（令和 2 年 3 月 31 日閣議決定）に定める生産努力目標の確実な達成及び「日本再興戦略」改訂 2015（平成 27 年 6 月 30 日閣議決定）に定める、10 年後に担い手の 60kg 当たりの生産コストを 5 割程度低減させるという KPI の実現に向け、生産性を向上させるための取組が重要である。

これらの目標実現に向けて、飼料用米生産農家の生産に係る技術水準の向上を推進するため、「飼料用米多収日本一」を開催し、生産技術の面から先進的で他の模範となる経営体を表彰し、その成果を広く紹介する。

2 実施主体

本事業は、一般社団法人日本飼料用米振興協会及び農林水産省の共催により行う。

また、全国農業協同組合中央会、全国農業協同組合連合会及び協同組合日本飼料工業会が後援することとする。

3 事務局

事務局は、一般社団法人日本飼料用米振興協会に置くこととする。

4 対象地域

全都道府県を対象とする。

5 表彰区分

表彰区分に次の 2 部門を設けるものとする。

- (1) 単位収量の部
- (2) 地域の平均単収からの増収の部

6 参加資格

次の要件を全て満たす経営体であること

- (1) 経営所得安定対策等実施要綱（平成 23 年 4 月 1 日付け 22 経管第 7133 号農林水産事務次官依命通知。以下「実施要綱」という。）IV の第 2 の 3 の交付対象者あるいはそれに相当する取組を行う者であって、飼料用米の生産面積がおおむね 1 ha 以上（※ 1）であること。
- (2) 日頃から生産技術の改善に努め、飼料用米の単収が地域の平均より相当程度高くな

ることが見込まれること。

- (3) 生産コストの低減や規模拡大など、生産性の高い経営に取り組んでいること。
- (4) 区分管理方式による出荷(※2)を行っており、実施要綱様式第11-2等の根拠書類によって生産面積及び出荷数量の確認を行うことができること。
- (5) 原則として過去3年以内に「飼料用米多収日本一」において農林水産大臣賞を受賞していないこと。

※1 生産面積については、飼料用米種子面積を除く

※2 需要に応じた米の生産・販売の推進に関する要領(平成26年4月1日付け25生産第3578号農林水産省生産局長通知。以下「推進要領」という。)別紙2の第3に規定する出荷方式

7 参加申込み及び必要書類の提出

- (1) 参加を希望する経営体は、生産年の募集期間中に参加申込書(別記様式1)を、各地方農政局(北海道にあつては北海道農政事務所、沖縄県にあつては内閣府沖縄総合事務局)に設置する飼料用米多収日本一ブロック事務局(以下「ブロック事務局」という。)(別紙1)へ提出すること。
- (2) ブロック事務局は、提出のあった参加申込書(別記様式1)を取りまとめ、参加資格を満たしているものについて、生産年の募集期間終了後1か月以内に事務局に報告すること。
- (3) 参加申込みを行った経営体は、生産数量が確定次第速やかに、推進要領別紙様式第4-13号に記載した生産面積及び収穫量等を基に、生産数量報告書(別記様式2)を作成し、推進要領別紙様式第4-13号等の根拠書類の写しとともにブロック事務局に提出すること。
- (4) ブロック事務局は、提出された生産数量報告書(別記様式2)を取りまとめ、事務局が定める日までに事務局に報告すること。

8 審査

(1) 審査委員会

飼料用米多収日本一の審査を実施するため、事務局が委嘱した学識経験者等をもって構成する審査委員会を設置する。

(2) 審査項目

審査は、次に定める事項について、生産技術の向上あるいは生産コストの低減等生産性の高い経営に取り組んでおり、先進的で他の経営体の模範となり得るものであるか否かを総合的に判断するという視点で進めるものとする。

- ① 申請者が自ら経営する水田に作付けした全ての飼料用米の10a当たり収量(※3)
- ② 生産コスト低減の取組
- ③ その他先進的で他の経営体の模範となり得る取組

※3 「10a当たり収量」とは、推進要領別紙様式第4-13号に記載された生産面積

及び収穫量から算出されるものをいう

(3) 審査方法

審査委員会は、参加申込のあった出品調査書に記載された内容等に基づいて、8の(2)の審査項目に係る審査を行うとともに、必要に応じてブロック事務局による現地調査を行い、総合的に判断して受賞者を決定するものとする。

9 褒賞の区分

褒賞の区分は次のとおりとする。

- ・農林水産大臣賞
- ・農産局長賞
- ・全国農業協同組合中央会会長賞
- ・全国農業協同組合連合会会長賞
- ・協同組合日本飼料工業会会長賞
- ・日本農業新聞賞

10 表彰

- (1) 参加申込みのあった経営体のうち、審査委員会で審査し、特に優秀と認められた経営体に対し、農林水産大臣賞を授与する(副賞含む)。
- (2) 参加申込みのあった経営体のうち、優秀と認められた経営体に対し、農産局長賞、全国農業協同組合中央会会長賞、全国農業協同組合連合会会長賞、協同組合日本飼料工業会会長賞、日本農業新聞賞のいずれかを授与する(副賞含む)。
- (3) 経営主の親族又は後継者であって、飼料用米生産への貢献度が高いと認められる者は、経営主と連名で表彰することができる。

11 日程は、毎年度別途定める。

12 審査結果の公表と表彰事例の普及

事務局は、審査結果を公表するとともに、表彰式を開催する。また、飼料用米の生産拡大の推進に資するため、当該表彰における経営の取組紹介等の情報について、農林水産省ホームページ等に掲載するなど、広く活用するものとする。

13 個人情報の取扱い

参加者から提出された参加申込書等に記載された個人情報は、当該表彰及びブロック事務局、都道府県等が当該表彰の一環で行う表彰並びに飼料用米の生産拡大の推進に関連する用途以外に使用しない。

別紙1

飼料用米多収日本一 ブロック事務局一覧

ブロック		事務局	郵便番号	住所、電話番号
北海道	北海道	北海道農政事務所 生産経営産業部生産支援課	064-8518	札幌市中央区南22条西6-2-22 TEL 011-330-8807
東北	青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県	東北農政局生産部生産振興課	980-0014	仙台市青葉区本町3-3-1 TEL 022-221-6169
関東	茨城県 栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県 山梨県 長野県 静岡県	関東農政局生産部生産振興課	330-9722	さいたま市中央区新都心2-1 (さいたま新都心合同庁舎2号館) TEL 048-740-1011
北陸	新潟県 富山県 石川県 福井県	北陸農政局生産部生産振興課	920-8566	金沢市広坂2-2-60 (金沢広坂合同庁舎) TEL 076-232-4302
東海	岐阜県 愛知県 三重県	東海農政局生産部生産振興課	460-8516	名古屋市中区三の丸1-2-2 TEL 052-223-4622
近畿	滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県	近畿農政局生産部生産振興課	602-8054	京都市上京区西洞院通下長者町下ル丁子風呂町 (京都農林水産総合庁舎) TEL 075-414-9020
中国 四国	鳥取県 島根県 岡山県 広島県 山口県 徳島県 香川県 愛媛県 高知県	中国四国農政局生産部生産振興課	700-8532	岡山市北区下石井1-4-1 (岡山第2合同庁舎) TEL 086-224-9411
九州	福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県	九州農政局生産部生産振興課	860-8527	熊本市西区春日2丁目10番1号 (熊本地方合同庁舎) TEL 096-300-6212
沖縄	沖縄県	内閣府沖縄総合事務局 農林水産部生産振興課	900-0006	那覇市おもろまち2-1-1 (那覇第2地方合同庁舎2号館) TEL 098-866-1653

別記様式 1

「飼料用米多収日本一」参加申込書

令和 年 月 日

飼料用米多収日本一〇〇ブロック事務局

氏名（ふりがな）

（集団の場合は集団名及び代表者名）

住所

電話番号

実施要領7の（1）に基づき、別添の出品調査書を添えて、「飼料用米多収日本一」に申し込みます。

「飼料用米多収日本一」 出品調査書

【各項目の記載は、地域再生協議会等へ提出の営農計画書等を元に記載願います】

1 当年産の経営概要

(1)氏名(集団名:代表者名)	(ふりがな)
(2)品種名	※複数の品種を作付けしている場合は、以下項目の記載は合計値を記載してください。
(3)飼料用米作付面積 a	
(経営全体の全水稻作付面積) a	
(全経営面積) a	

※飼料用米作付面積は、「営農計画書等」に記載された面積(飼料用米種子面積を除く)

2 当年産の収量向上の取組(該当に☑を入れてください。複数選択可)

(1)品種の選択理由	<input type="checkbox"/> :多収が期待できる <input type="checkbox"/> :耐倒伏性 <input type="checkbox"/> :耐冷性 <input type="checkbox"/> :耐病性 <input type="checkbox"/> :難脱粒性 <input type="checkbox"/> :栽培し易い <input type="checkbox"/> :作期分散 <input type="checkbox"/> :地域適性 <input type="checkbox"/> :需要者からの要望 <input type="checkbox"/> :その他()
(2)施肥	①土壌改良資材・基肥 <input type="checkbox"/> :稲・麦わらずき込み <input type="checkbox"/> :緑肥 <input type="checkbox"/> :リン酸資材 <input type="checkbox"/> :ケイ酸資材 <input type="checkbox"/> :塩基(石灰・苦土・加里)資材 <input type="checkbox"/> :鶏ふん堆肥 <input type="checkbox"/> :牛ふん堆肥 <input type="checkbox"/> :豚ふん堆肥 <input type="checkbox"/> :育苗箱全量施肥 <input type="checkbox"/> :主食用米一発肥料 <input type="checkbox"/> :多収品種専用一発肥料 <input type="checkbox"/> :化成肥料 <input type="checkbox"/> :高度化成肥料 <input type="checkbox"/> :BB肥料 <input type="checkbox"/> :液状複合肥料 <input type="checkbox"/> :その他()
	②追肥 <input type="checkbox"/> :穂肥 <input type="checkbox"/> :実肥 <input type="checkbox"/> :なし <input type="checkbox"/> :その他()

3 当年産のコスト低減の取組(該当に☑を入れてください。複数選択可)

(1)輪作	①輪作の実施	<input type="checkbox"/> :あり <input type="checkbox"/> :なし
	②輪作ありの場合(品目名)	(前々年産) 品目名()
		(前年産) 品目名()
(2)育苗・播種	①播種形式(移植・直播等)	<input type="checkbox"/> :移植 <input type="checkbox"/> :乾田直播 <input type="checkbox"/> :湛水直播
	②育苗・移植のコスト低減	<input type="checkbox"/> :プール育苗 <input type="checkbox"/> :密播(密苗) <input type="checkbox"/> :資材軽量化 <input type="checkbox"/> :疎植 <input type="checkbox"/> :その他()
(3)施肥	①耕畜連携による堆肥利用	<input type="checkbox"/> :あり <input type="checkbox"/> :なし
	②基肥等の施肥方法	<input type="checkbox"/> :田植え前全層施肥 <input type="checkbox"/> :田植え同時側条施肥 <input type="checkbox"/> :育苗箱施肥 <input type="checkbox"/> :その他()

	③追肥の施肥方法	<input type="checkbox"/> :散布機 <input type="checkbox"/> :流し込み <input type="checkbox"/> :無人ヘリコプター <input type="checkbox"/> :ドローン <input type="checkbox"/> :その他()
(4)病虫害防除方法		<input type="checkbox"/> :育苗箱施用 <input type="checkbox"/> :田植え同時側条施用 <input type="checkbox"/> :無人ヘリコプター <input type="checkbox"/> :ドローン <input type="checkbox"/> :その他()
(5)乾燥・調製コスト低減	①乾燥コスト低減	<input type="checkbox"/> :立毛乾燥させている <input type="checkbox"/> :立毛乾燥させていない
	②乾燥・調製 (ライスセンターやカントリーエレベーター等の共同施設利用等)	<input type="checkbox"/> :主食用と共通のライスセンター・カントリーエレベーター <input type="checkbox"/> :飼料用米専用のライスセンター・カントリーエレベーター <input type="checkbox"/> :自己所有 <input type="checkbox"/> :その他()
(6)出荷方法		<input type="checkbox"/> :もみ <input type="checkbox"/> :玄米
		<input type="checkbox"/> :フレコン <input type="checkbox"/> :バラ <input type="checkbox"/> :紙袋 <input type="checkbox"/> :その他()
(7)規模拡大等		<input type="checkbox"/> :集積(作付面積増)している <input type="checkbox"/> :団地化している

4 飼料用米の販売先等(該当に☑を入れてください。)

※販売先が複数の場合、最も出荷数量の多い1社分を記入してください。

(1)販売先名	
(2)流通区分	<input type="checkbox"/> :県外流通 <input type="checkbox"/> :県内流通 <input type="checkbox"/> :自家利用 <input type="checkbox"/> :不明

5 飼料用米の販売価格等(実需者と直接取引を行う場合で、販売価格等を把握できる場合のみ回答してください。)

(該当に☑を入れてください。)

※販売先が複数の場合、最も出荷数量の多い1社分を記入してください。

(1)引渡方法	<input type="checkbox"/> :生産者持込 <input type="checkbox"/> :実需者等引取
(2)輸送費負担	<input type="checkbox"/> :生産者負担 <input type="checkbox"/> :実需者等負担
(3)農産物検査(検査料負担)	<input type="checkbox"/> :生産者負担 <input type="checkbox"/> :実需者等負担 <input type="checkbox"/> :未受検
(4)販売価格(品代) (可能な範囲で記入してください)	品代()円/kg
	<input type="checkbox"/> :輸送料・手数料等差し引き前の価格 <input type="checkbox"/> :輸送料・手数料等差し引き後の価格
(5)輸送料・手数料等 (可能な範囲で記入してください)	輸送料()円/kg
	手数料()円/kg
	その他(〇〇料:)円/kg

別記様式 2

「飼料用米多収日本一」生産数量報告書

令和 年 月 日

飼料用米多収日本一 ○○ブロック事務局 殿

氏名（ふりがな）

（集団の場合は集団名及び代表者名）

住所

電話番号

実施要領 7 の（3）に基づき、別添の生産数量報告書を添えて、提出します。

「飼料用米多収日本一」生産数量報告書

【各項目の記載は、地域再生協議会等に提出している営農計画書等を元に記載願います】

1 当年産の経営概要

(1)氏名(集団名:代表者名)	(ふりがな)
(2)品種名	※複数の品種を作付けしている場合は、以下項目の記載は合計値を記載してください。
(3)飼料用米作付面積(※1) a	
(経営全体の全水稻作付面積) a	
(全経営面積) a	

※1 需要に応じた米生産・販売の推進に関する要領別紙様式第4-13号等の生産面積(飼料用米種子面積を除く)

2 生産数量

全収穫量(※2) kg	
・10a当たりの収量(a)	
(地域の基準単収(b))	
(地域の作況指数(c))	
・基準単収との比較 (a - (b × c ÷ 100))	

※2 需要に応じた米生産・販売の推進に関する要領別紙様式第4-13号等の収穫量(飼料用米種子の収量を除く)

3 その他

(1)収量の増減要因 (収量向上に効果の高かった取組や、収量が減少した場合はその要因) (該当に☑を入れてください。複数選択可)	【収量向上に効果のあった取組】 □:品種 □:施肥 □:天候 □:病虫害防除 □:その他()
	【収量減の要因】 □:品種 □:施肥 □:天候 □:病虫害被害 □:その他()
(2)生産コスト低減の効果 (コスト低減に最も効果が高かった取組を記載)	

添付資料: 需要に応じた米生産・販売の推進に関する要領別紙様式第4-13号等の根拠書類の写し

